

令和5年度 教育活動に関する職員アンケート(後期学校評価)結果

学校評価委員会

〈回収率〉 小学部 100% 中学部 100% 高等部 90.5%
全体 96.8%

回答の傾向について

全体を通して、各部の取り組みにおける「A」「B」の回答が、ほぼ90%を超え、概ね達成できたと捉えられる結果となりました。後期に入り、行事や活動を終え、職員の実践が子どもたちの成長として目に見えてきたことや、指導すべき内容が具体化されたことなどが、このような結果につながったのではないかと考えています。

また、今回は、職員、保護者、生徒アンケートにおいてそれぞれ関連している質問項目の回答から、日々の実践の成果が目に見えて分かる結果となりました。特に、重点目標1、各学部の重点事項(1)の結果は、職員自身の評価と、それに関連する保護者、生徒アンケートの質問項目の回答結果のつながりが目に見える高い評価となりました。他にも高い評価結果が出ている項目があり、各学部、各部での取り組みをまとめた補助資料を配布したことも、客観的な視点の評価へとつながったのではないかと考えます。これらのこと踏まえて、今年度の取り組みに対する成果と今後の改善策を考える分析へとつなげていきます。

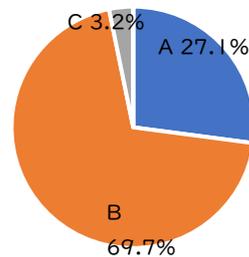
重点目標・重点事項について

※学校経営・運営ビジョン重点目標(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、学部間、学校間及び卒業後の学びを重視しながら、自立と社会参加に向けた資質・能力の育成を図っている。

A 27.1% B 69.7% C 3.2%

前期 A 19.0% B 76.5% C 4.5%



■ A とてもできている ■ B できている
■ C あまりできていない ■ D できていない

※小学部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、自立と社会参加に向けて、児童が言葉や様々な手段を用いて気持ちを伝えたり、受け止めたり聞いて行動につなげたりし、人とのやりとり、思考・判断・表現、行動の調整などを行う基礎となる言語能力の育成に努めている。

A 35.7% B 64.3%

※中学部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、自立と社会参加に向けて、他者を意識したやりとりをしたり、集団の中で自分の役割を果たしたりしながら他者と協力・協働して社会に関わろうとする人間関係形成・社会形成能力の育成に努めている。

A 31.0% B 65.5% C 3.5%

※高等部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、自立と社会参加に向けて一人一人の学習震度や特性等を的確に把握し、教育的ニーズに応じて支援や教材等を工夫したり、生徒同士や地域の人々との協働を計画的に設定したりしている。

A 14.6% B 79.2% C 6.2%

各学部ともに「A」「B」の回答が93%を超えています。全体で見ても、前期と比較して上昇した結果となりました。また、この質問に関連する保護者のアンケート項目の回答が95%以上、生徒のアンケート項目の回答も85%以上の結果となりました。これは、日々の授業実践及び子どもたちへのかかわりに職員自身が達成感をもっているということ、また、それが保護者及び生徒にもご理解いただき高評価として捉えられます。このことは、「学校の質の向上」につながると考えています。

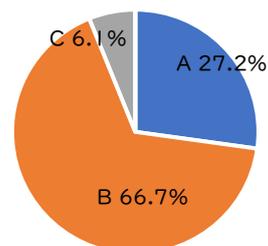
一方で、意見記述には、職員の多忙感や、業務内容の精選、業務分担の工夫など、学校全体として考えていく必要がある内容が挙がっています。子どもたちの成長のために職員が達成感や充実感をもって働けるよう、改善策を検討し、一つ一つ取り組んでいきたいところです。

※学校経営・運営ビジョン重点目標（2）

効果的な ICT の活用を通して、児童生徒の情報活用能力を育成し、児童生徒が様々な場面で一人一人の能力を発揮することができる。

A 27.2% B 66.7% C 6.1%

前期 A 20.0% B 74.5% C 5.5%



■ A とてもできている ■ B できている
■ C あまりできていない ■ D できていない

※小学部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して児童の情報活用能力を育成し、一人一人の児童が能力を発揮しながら主体的に課題解決の学習に取り組むことができるように年間指導計画に明記して計画的な指導に努めている。

A 28.6% B 69.0% C 2.4%

※中学部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して生徒の情報活用能力を育成し、必要な情報を得たり、課題解決に向けて情報を主体的に活用したりする授業の展開に努めている。

A 29.6% B 55.6% C 14.8%

※高等部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して生徒の情報活用能力を育成し、様々な情報を結びつけたり、問題の発見や解決に向けて活用したりして、情報社会に主体的に参画できる態度等を身に付けることができる授業の展開に努めている。

A 25.0% B 68.8% C 6.2%

全体で見ると「A」「B」合わせて約94%になり、概ね達成していると捉えられます。学部別に見ていくと、小学部と高等部では90%以上の回答となっており、特に小学部では前期と比較すると約20%の上昇となりました。

一方で、中学部では「C」の回答が約15%となりました。中学部では、前期の「A」「B」の回答が100%でした。学校公開で「情報活用能力」をテーマに授業実践を行ったことなどもあることから、「ICTの活用」に対する意識の高まりからこのような結果になったのではないかと捉えました。また、担当している生徒の活用状況から、職員の回答の差が見られたのではないかと考えられます。

「ICTの活用」については、今後も効果的な活用に向けて引き続き取り組み、様々な授業実践の共有や年間指導計画の作成等、学校全体として考えていきます。



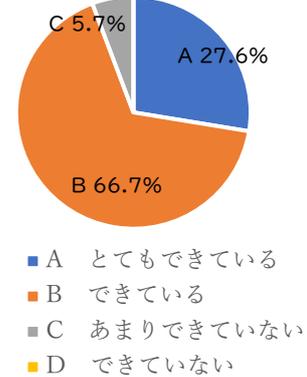
教 務

※カリキュラム・マネジメントの実践

児童・生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力を図るため、学部及び各部と連携・協働し、教育活動を組織として改善しようと努めている。

A 27.6% B 66.7% C 5.7%

前期 A 17.1% B 74.0% C 8.3% D 0.6%



全体で見ると、「A」「B」の回答で94.3%となり、前期と比較

して3%上昇しました。これは、おおむね達成できている状況と捉えられます。一方で、学部ごとに見てみると、中学部だけが前期の96.4%から89.6%に下がる結果となりました。

カリキュラム・マネジメントにおいては、今年度、年間指導計画の内容、個別の指導計画及び通知票の様式の検討、本校の育成を目指す資質・能力の見直し等、教務部を中心に全職員で取り組んできました。これまでの業務に加えての見直し作業となったことが、組織人数の少ない中学部では職員の多忙感につながり、協働の視点で厳しい評価になったのではないかと考えます。

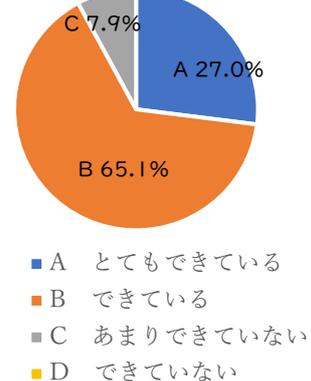
保健部

※保健指導の充実

関連する部署と連携を図り、各学部で発達の段階に応じた「性に関する指導」を実施している。

A 27.0% B 65.1% C 7.9%

前期 A 16.5% B 68.0% C 14.1% D 1.4%



「A」「B」の回答が92.1%で、前期と比較して数値が大きく上昇しました。特に、小学部においては、約10%上がっています。後期になり、授業実践や日々の関わりにおいて子どもたちにとって必要な指導内容が明確になったこと、また、年間指導計画の見直しをしていく中で、指導内容に見通しがもてたことなどが結果につながっているのではないかと考えられます。

保護者アンケートの「保健指導の充実」についての質問項目では、全学部で「A」「B」の回答が90%を超えていました。日々の取り組みの成果が、子どもたちの成長につながっていると捉えられる結果です。今後も、子どもの発達段階や障がいの状況を踏まえながら、引き続き取り組んでいきたい内容です。



<その他>

研修、生徒指導、キャリア支援、情報教育、教育支援、渉外の質問については、「A」「B」の回答が90%を超え、概ね達成できていると捉えることができる結果となりました。次年度も、継続して取り組むことができるよう、具体的な目標の設定、取り組みの可視化等の工夫に努めていきたいと考えます。

<意見記述から>

- ・「社会参加」「働く意欲」について継続した指導を考えると、小学部段階でどのようなことが必要か、考えていきたい。
- ・年計の作成について、大変な作業ではありますが、全面的に見直す機会があったことは、個人的によかったと思っています。根拠をもって指導していくことの大切さを改めて感じました。
- ・校内での ICT 活用の実践例を全職員で共有する機会があれば、教員個々の専門性につながるのではないかと。
- ・中学部は、学年の中での連携がしっかり取れており、教育課程ごとや作業学習など、学年を超えた縦のつながりもしっかりある。生徒の課題が起きたときに、ケース会を開いて、より良い支援策を関係者で検討していることが、少しずつでも改善につながっていると感じる。

このように、次年度につながる意見がある一方で、以下のような意見もありました。

- ・教員が健康で余裕をもって日々の授業に当たれるよう、会議・研修・行事等の精選が必要。
- ・あまりにもいろいろな研修や会議、文書作成ばかりが多く、ゆとりをもって日々の授業実践にいかしきれていないのではないかと思う。
- ・学校の教育活動をより良いものにしていくためには、教員がしっかりと教材研究や授業の準備ができる時間を確保できることが前提であるので、事務作業、校務運営、会議等をいかに業務削減できるかを学校組織全体で考える必要があると思います。

多くのことを実践したいと考えているものの、限られた時間の中で、思い通りに業務が進まないことからの意見であると捉えています。職員の「もっとできるのではないか。」「がんばりたい。」という意識の高まりを実現できるようにしていくことが大切であると考えます。